

10月1日 ぼっこぼこ!!!

今日はプレゼンの日だ。朝から早速アジャン・デン（デン先生）の部屋に行くと、なにやら笑い気味に話しかけてくる。なんだろうかと思ったら、ナッターとナッチャーのオリジナルのドキュメントを高知大の先生方に渡しそびれていたそうだ（笑）まだ間に合うとのことだったので、明日帰る井上が持っていくことになった。その後、アジャン・デンとアジャン・デンの研究室の学生一人とデン先生の隣の研究室のアジャン・ジェ（ジェ先生）にプレゼンを行った。井上と浅山は二人とも高知で「地域」に関する研究対象が有り、二人ともバンジャムルンの成功点を現場に適用させたらよいのではないかと、適用させるにはどうしたらよいか、ということを発表していた。僕はバンジャムルンとつなげられそうな専門的な研究対象が思いつかなかった。なので、バンジャムルンの雰囲気の良い、人々のリラックスに焦点を当てて、それがお客さんにもいい影響を及ぼしているということと述べ、またバンジャムルンの景色の美しさとか五感で感じる心地よさを感じれる場所を示した地図作りなどを提案した。僕のは批判轟々だった。「なぜバンジャムルンの住民が笑顔でいられるのか？」ということをつっこまれた。予想としては経済的基盤がすでにある程度充実していたり、彼ら自身で作って住民自らの手で造り上げたコミュニティセンターだからかなあと思っていたが、発表しなかったのでかなりつっこまれた。そしてなぜデン先生がこの質問にこだわったかということ、タイ人の多くは仮に問題を抱えていても「明日どうにかしよう、今日は楽しく過ごそう」と問題解決を後回しにして今日の一日を楽しみずる先延ばしにするという思考であるが、バンジャムルンの人々はそうではないからだ。バンジャムルンの人々はコミュニティで集会を持ち、問題を汲み上げ解決に向けて努力してきてその努力の上に今の笑顔が有る、だからただただ笑っているのではない、というようなことをアジャン・デンは言っていた。また、ホームステイ先に泊まる人や研修客はリラックスじゃなくて learning に来るとも言っていた。いや、それだけでもないのではないかと、という考えも有ったが、リラックスをしに来るホームステイ利用者の割合は不確かだったのでそのまま受け取った。また、もし learning 目的じゃないホームステイ客が増えたりして研修客が増えすぎるのも困りものだろう。あと、リラックスできる風景を発表したときに”romantic!”と言われた。しかしこれが日本語で言う「ロマンチック」なのか「空想的」なのかはわからない。両義でもあるかもしれないが、一応笑顔で行っていたので肯定的な方だと思いたい。一応、良い感じの景色としてバンジャムルンを捉えることも悪くは無さそう。また、バンジャムルンでは研修客（＝お昼も食べにくるお客さん）が多すぎて、伝統料理のうちのひとつのサラダに使う野菜が足りなくなっているという。もしこれで足りないからといって他のところでとれたものを提供することは「伝統料理」「郷土料理」の名を偽装することになってしまう。だから、研修客の受け入れと材料消費のバランスを考える必要も出てきているそう。この問題は馬路村でも起こっていると聞いたことが有った。「郷土料理」「地元ならでは」を押す際にはこの需要と供給のバランスをどうしていくかが問題になるのだなあとと思った。プレゼンを終えて、よりバンジャムルンを知りたくなった。



お昼はアジャンデンとアジャンジェにおごってもらった。ありがたい。タイではたくさん食べさせるのがおもてなしらしい。沖縄のおばあ「カメカメ攻撃」(=食事での際限なきおもてなし)に似ている。辛くないソムタムが出されて、恐る恐る食べると、とてもおいしかった。辛くなくてもおいしいもの作れるじゃ〜んみたい。タイに来て39日にして(><) そんな僕とは対照的に、アジャン・ジェは唐辛子を生でポリポリ食べれるらしい。むしろ唐辛子は生活に必須の食べ物だそう。イギリスに留学に行ったときには、唐辛子をほとんど食べなかったせいか、頭痛に悩まされたらしい。会話の中で、南部の人は料理上手で、アジャンデンの料理もかなりおいしいと知った。アジャン・デンは仕事で海外に行っても、いつのまにか料理を作っていることが多いそう。また、バンジャムルンについて気になっていたことをいくつか聞いた。カピはスペシャルなものなのかどうかと聞くと、カピは東部のノーマル料理でそれほどめずらしいものではないという。また、ドリアチップスも東部にも有るし、バンコクにも有った。でもドリアンチップスはそんなに普及しているわけでもないで、東部の特産品として有名らしい。また、バンジャムルンで住民が会うとすぐに「ご飯を食べたか？」と聞く、というエピソードを話すと、タイでは会ったらまず、「どこからきたのか？」次に「ご飯はもう食べたか？」と聞くのがお決まりだとアジャンデンが話してくれた。不思議なことに、アジャン・ジェがなぜか「半沢直樹」の存在を知っていた(笑) ベトナムのことを知っているかとジェー先生に聞かれた。場所や存在自体は知っているが、詳しくは僕は知らなかった。ジェー先生の話では、ベトナム人はタイ人と違ってとても勤勉だそう。一方のタイ人は暇さえあれば好きなことをするか遊びに行くか寝る、みたいなことを言っていた。とてもおもしろい話を聞いた。ごちそうさまでした。

ランチの後はアジャン・ジェにコーヒーをおごってもらった。コーヒーをありがとうジェ先生。タイではおごってもらって食べてばかりだ。

夕方は2番のバスに乗ってすこしまサート探索をした。タイ滞在終盤にやっとタマサートの大体図をつかめた気がした。